



# 持続可能な社会を目指す

新しい技術・家庭（家庭分野）では、環境・資源・エネルギー、多様性の尊重、防災・安全など、持続可能な社会の構築に向けて、さまざまな取り組みを紹介しています。

## 環境・資源・エネルギー

### 持続可能な社会の構築に向けて



社会や人、環境などに配慮し、持続可能な社会の構築に向けて責任のある行動がとれる生活者の育成を目指しました。関連する内容に「環境」マークを付けています。



特に各編末、巻末を充実させ、生活や社会に学習をつなげます。

### ESDの例

- p.96-99 持続可能な食生活を目指して
- p.154-155 持続可能な衣生活を目指して
- p.178-179 持続可能な住生活を目指して
- p.202-205 省エネルギーと持続可能な社会
- p.206-207 持続可能な消費生活を目指して
- 口絵5-6 持続可能な社会を目指して など

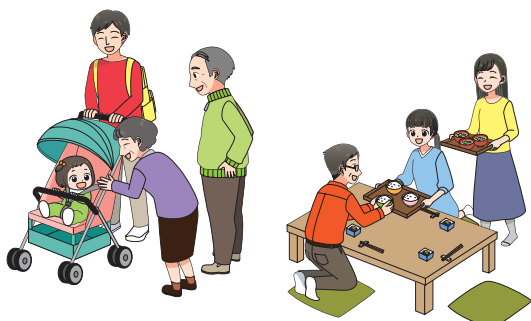
◀持続可能な社会を目指して 口絵5-6

## 多様性の尊重

男女共同参画社会や多様性など、共生の視点を重視し、随所に取り入れています。性別や世代を超えて、共に生活している場面を豊富に掲載しました。p.266の資料「自分らしく生きる―多様な生き方―」では、多様な生き方についてのコラムを掲載しています。

### プライバシーや人権上の配慮

生徒のプライバシーに関わる問題には深く踏み込みすぎないように十分に配慮し、生徒一人一人とその家族が、かけがえのない存在であることが伝わるように編集しました。



### 共生への配慮

共生の視点から、全ての人にとって安全・安心に利用しやすくするために考えられている、身近なユニバーサルデザインを取り上げました。



ユニバーサルデザイン  
p.284-285▶

# 防災・安全

## 家庭分野の防災教育



家庭分野ならではの生活に根差した視点で防災教育を扱い、災害に備えるための防災・減災に関する内容を充実させ「防災」マークを付けて示しました。

### 1 住生活で充実

住生活の内容で、安全教育や防災・減災教育を充実させています。

▼災害への対策 p.174-175

起こりうる自然災害を挙げて注意喚起し、それらに備えるための住空間の整え方を学習します。

### 5 災害への対策

自分の住む地域の災害の危険性について理解できる。  
 避難など災害への備えについて考え、対策を立案できる。

**考えよう**  
 あなたが住んでいる地域では、どのような災害に備えておく必要があるか考えよう。

**日本でも発生した主な災害**

年	災害名	死者・行方不明者数(人)
1923年9月	関東大震災	(約 105,000)
1959年9月	伊勢湾台風	(5,098)
1990年11月~1995年6月	阪神・淡路大震災	(44)
1995年1月	阪神・淡路大震災	(6,437)
2004年10月	新潟県中越後地震	(68)
2011年3月	東日本大震災	(22,252)
2011年8~9月	平成23年台風第12号	(98)
2012年11月~2013年3月	平成24年の大雪等	(104)
2014年9月	熊本地震	(63)
2016年4月	熊本震災	(273)
2018年6~7月	平成30年7月豪雨	(245)

**地域の災害と防災・減災**  
 日本は地震、津波、豪雨、台風、洪水、土石流、豪雪、竜巻、火山の噴火など自然災害が多い国です。そのため、常に防災や減災について意識しておく必要があります。災害に備えるうえでは、自分の住んでいる地域でどのような災害の危険があるか知っておくことも重要です。  
 そして、事前に地域の情報を調べ、災害が起きたときの避難方法や避難場所、消火器の設置場所等について家族や友達といっしょに確認しておきましょう。また、食料や水の備蓄、防災用品の準備、家具などへの対策が必要です。

**地震の揺れと人の体感・行動**

震度	人の体感・行動
0	人は揺れを感じないが、地震計には記録される。
1	屋内で静かになっている人の中には、揺れを感じる人がいる。
2	屋内で静かではない人の大半が、揺れを感じる。
3	屋内にいる人のほとんどが、揺れを感じる。
4	ほとんどの人が驚く、歩いている人のほとんどが、揺れを感じる。
5	大半の人が、恐怖を感じる。物につまもらないと感じる。
6	大半の人が、物がつかまらないと多く感じる。行動に支障を感じる。
7	立てっいることが困難になる。
8	立てっいることができず、はわないと動くことができない。揺れに襲われる。
9	立つこともできず、飛ばされることもある。

### 3 私たちの住生活

#### 3-1 住まいの中の危険対策の例

**地震への備え**  
 日本では世界の中でも地震が多い国です。家庭では、地震を想定して、家具の配置、物の置き方など、日頃から災害に備えた住まい方をしておくことが大切です。地震の二次災害として発生する通電火災などにも注意が必要です。さまざまな状況を想定して住まい方を考えれば、災害時の被害を少なくし、安心して住まうことができます。①②③を参考に住まいを点検し、地震に備えてできることを実行してみましょう。

**活動 危険な箇所を探そう**  
 p.172~p.173の図を見て、地震のときに危険だと感じる箇所を探しましょう。また、①②③を参考に具体的な対策を考えよう。

**住まいの中の地震対策の例**

天井と壁の隙間に戻り釘を設置する  
 柱などの丈夫なものに固定する  
 ガラス飛散防止フィルムを貼る  
 重い家具を壁についで固定する  
 家具に固定用の金具を取り付ける  
 通電防止のブレーカーと非常用持ち出し袋を置いておく  
 避難経路を確保しないように、出入りの動線に家具や物を置かない  
 固定性のあるグランドシートでテレビボードに固定する

大きくて重いものを下にに入れて、重心を低くする  
 逃げ道を確保しないように、出入りの動線に家具や物を置かない

※1 通電火災 大規模な地震などに伴う停電が復旧する間に発生する火災のこと。被災した電気製品や電気配線が通電時に発火することなどが原因となる。

## 防災・減災手帳

**はじめに**  
 「平成」の時代には、平成7年の阪神・淡路大震災、平成23年の東日本大震災という大きな災害がありました。そのほかにも、地震や台風など各地でもさまざまな災害が起こっています。このような災害は、いつ起こってもおかしくありません。災害をなくすことはできませんが、学校分野の学習を生かして、しっかりと備えておけば、被害を減らすことはできます。いざという時を想定して、ふだんから備えておくことが大切です。

**地震発生からの数日間**  
 地震などの災害が発生すると、電気、水道、ガス、電話といったライフラインが復旧するまで、数日間一週間開ける可能性があります。その間、自力で生活できるように、日頃から災害時を想定して、備えておくことがとても大切です。

**自助** (自分でやる)  
**共助** (地域内の助け合い)  
**公助** (国や自治体の助け合い)

**安全安心**

**地震発生** → 2~5日目 → 6日目くらい~

安全確保、避難活動、初期消火  
 安全確保、避難活動、情報・物資入手  
 公共サービスの復旧開始

**目次**

- ① 食生活での備え 2
- ② 衣生活での備え 4
- ③ 住生活での備え 6
- ④ 家庭・地域での備え 8
- ⑤ 災害時の情報入手 12

**Dマーク**

※この手帳は、切り取り後で切り離して、活用しましょう。

### 2 防災・減災手帳

家庭分野の学習内容に沿った災害への備えを手帳にまとめ、巻末の付録に新設しました。

ミシン線で切り離して冊子にし、持ち運ぶこともできます。

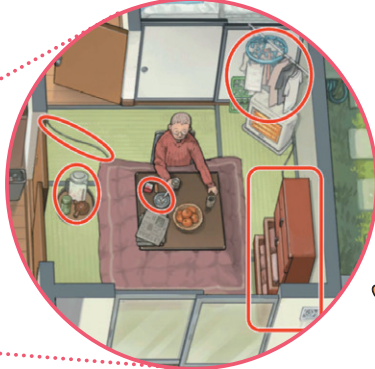
◀防災・減災手帳 巻末付録

### 防災マークの例

- p.146 防災リュック
- p.174 災害への対策
- p.176 中高生が被災時にできたこと
- p.177 避難所や仮設住宅での暮らしをよりよくする工夫
- p.179 地域のひととの防災訓練
- p.219 防災訓練
- p.260 「助けられる人」から「助ける人」へ  
 ー地域のひとと関わり、ともに生きるー
- 巻末付録 防災・減災手帳 など

### 3 Dマークコンテンツ

住まいの中の危険をゲーム形式で楽しみながら探すことができます。教科書p.172-173のイラストを用いているので、授業内でも活用できます。



家庭内事故と防災・減災の2つの視点から活用することができます。